

傾聴ボランティア

誰かと話したい…だれかに聴いてほしい

と思うことはありませんか？

その想いを

傾聴ボランティアに話してみませんか？

傾聴ボランティアは、どこでも、いつでも、誰にでもお話を聴かせていただくことにより、話してくださった人が「ああ、落ち着いた」「何か楽になった」「ちょっと元気になった」「助かった」と思っていたけように、ゆっくり聴かせていただくボランティアです。

第42期 傾聴ボランティア養成講座

受講生 募集中

良い聴き手を育成するために傾聴ボランティア養成講座を開講します

✿開催日程

2026年1月18日～3月1日 各回日曜日（13:00～16:00）全6回

第1回	1月18日（日）	第4回	2月15日（日）
第2回	1月25日（日）	第5回	2月22日（日）
第3回	2月1日（日）	第6回	3月1日（日）

✿講 師 日本傾聴塾認定指導者 西岡まゆみ

✿受講方法 ZOOM によるオンライン講座（ネット環境がない方はご相談ください）

✿定 員 5名

✿受講料 7,000 円

（内訳：日本傾聴塾受講費 3,000 円 テキスト代 2,530 円 その他諸経費）

✿募集締め切り 2026年11月7日

✿問合せ先 山形傾聴塾

西岡まゆみ（携帯）080-5015-9734（mail）mmwesthill@h2.dion.ne.jp

梅津 幸士（携帯）090-9533-0532（mail）kojiumetu@icloud.com



詳しくは【日本傾聴塾ホームページ】をご覧ください

傾聴ボランティア

山形 傾聴塾



人は誰でも心から

聴いてほしいのではないのでしょうか

傾聴ボランティアとは、病院や特別養護老人ホーム、あるいは福祉施設に患者さんやお年寄り、障害を抱えて生きている人など、援助を必要としている人々を訪問して、そのさまざまな想いや言葉に耳を傾けることで共感と心のケアを共にすることをめざすボランティアです。

私たちは「傾聴」というものが、病いや大きな困難のなかにある人々に、また施設や在宅のお年寄り、病床で孤独に陥っている人々に確かな援助となることを実感しています。

人は誰でも、元気なときでさえも、誰かに「聴いてもらえること」を必要としています。まして孤独で病いに臥（ふ）せるとき、老いと死に直面しているとき、その心の想いに耳を傾け共感してくれる人を必要とするのです。

「なぜこんなに苦しまねばならないのか」

「思い残すことがある……残念だ」

「私が死ねば、この子はどうなるのか」

「いったい私の一生は何だったんだろう」

「もう疲れた。休みたい」

「たったひとりで、たまらなく寂しい」

「昔のこと、聴いてほしい……あの頃は楽しかった」

体が病むとき、心も不安と孤独に波立ちます。胸にわき上がるさまざまな想いや願いは、誰かに聴いてもらうことを求めています。そして心から聴いてもらえたとき気持ちが落ち着き、人は現在（いま）を生きる力が湧いてくるのです。

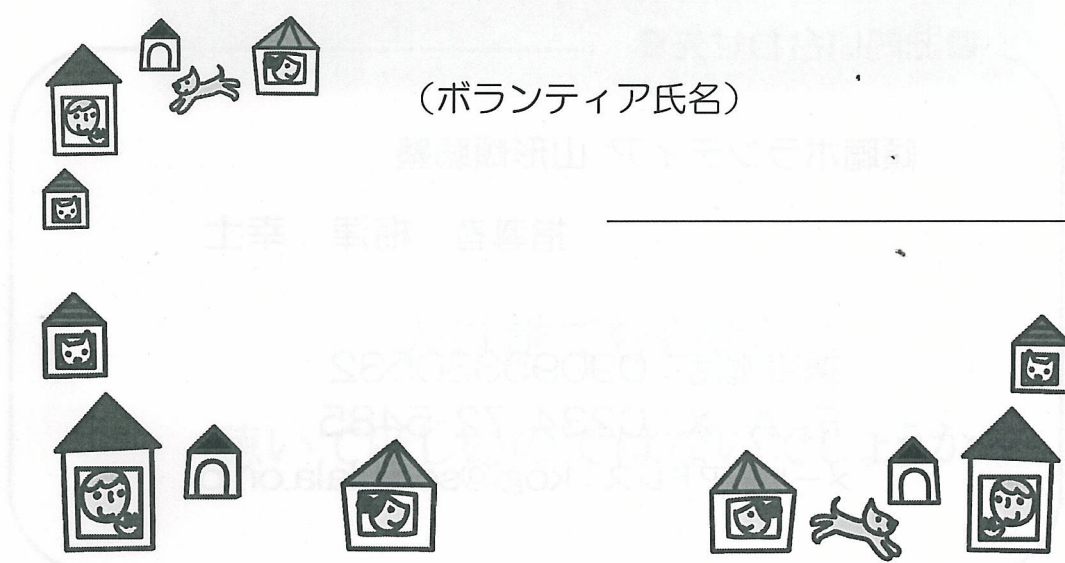
活動内容

老人福祉施設や病院を月に 1～2 回、お一人あたり 30 分～40 分ほど訪問し、利用者や患者さんのお話に耳を傾けます。

私たちの訪問は、もちろん相手の方が中心です。話したくないとき、人に会いたくないときは、「またの機会に…」とお断りください。

訪問するボランティアは、指導者による※傾聴ボランティア養成講座を修了した会員です。守秘義務等プライバシーの保護には十分注意をするとともに、定期的な研修会で理論と実践スキルを学びながらボランティア活動を行っています。

山形傾聴塾は、現在約 40 名の会員が県内各地で活動しています。



(ボランティア氏名)

※傾聴ボランティア養成講座について

困難のなかにあって苦しんでいる人を訪問し「傾聴」によって全人的なケアをめざすことは、ボランティアといっても誰にでもできるわけではありません。

それにはしっかりとした基盤の上に立った、系統的な教育と訓練を受ける必要があります。

ボランティア育成の為に、講義、演習、実習、振り返りからなる養成講座を年一回開いています。そして、その講座の修了生が傾聴ボランティアとして活動しているのです。また、会員は月一回の研究会で継続した研修を行なっています。

日本傾聴塾代表

村田 久行

京都生まれ。神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了。京都ノートルダム女子大学名誉教授、NPO 法人対人援助・スピリチュアルケア研究会理事長。

■お問い合わせ先■

傾聴ボランティア 山形傾聴塾

指導者 梅津 幸士

携帯電話：09095330532

F A X：0234-72-5485

メール・アドレス：kogi@sea.plala.or.jp